

花のある街を作ろう

対象：大人（興味のある人）

人数：5～10名

教科/分野：植栽による環境活動

授業時間数：2～3回（各2時間）

場所：座学（公民館や集会所）実習（屋外・花壇）

ESD プログラムへの 想い	<ol style="list-style-type: none"> 1 旅行などで感じた地域の良かったこと、心に残った風景等、真似をして活用してみたい。 2 豊かな自然と植栽された花木の織り成す調和の素晴らしさを感じてほしい。 		
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 参加者が、私達が市内の花壇で行っているボランティア活動でペチュニアを育てている事を、実地に見ることで自分達にもできる事を知る。 2 参加者が、みんなで育てる花や緑化が市民に認知されことによりコミュニティの活性化に貢献している事を学ぶ。 3 花のある街の風景が、街への関心を高めるきっかけになる事を実感する。 4 花のある街の風景を実現し維持する事は、人々の活動や協力によって支えられている事を理解する。 5 標語「育てよう豊かな心とペチュニアを」 		
特 徴	<ol style="list-style-type: none"> 1 花を愛でる心を醸成できる。 2 地域の自治会と連携でき、将来的にはサークル活動のように取り組める可能性がある。 		
持続可能な社会づくりの 構成概念	<ol style="list-style-type: none"> 1 多様性：豊かな緑と花のある環境は、人の活動によって作られたものであることを知る。 2 責任性：自分の街は自分達で綺麗にしようという心が芽生える。 3 連携性：身近な地域やサークル活動との連携が可能である。 4 公平性：地域の人々や行楽客が花のある美しい街の環境を受け入れられる。 		
重視する能力・態度	<ol style="list-style-type: none"> 1 花のある街を心に描き、夢のある街づくりを広める活動に取り組む。 2 こうした活動を他のコミュニティと連携して行うにはどのようにするか。 3 花のある街造りを実現するために、笑顔と協調性を持った人材の育成をどう図るか。 		
プログラムの流れ			
時 間	ねらい	方法 場所	内 容
	事前に準備する もの		服装・手袋（前日までに周知する）、移植ごて・必要な土（人数に合わせた量）、肥料、散水用の水、パンフレット、ごみ袋等

1 時間	現状の把握 植栽等について	講義	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境省や自治体のパンフレットの説明 2 手順：時期3月中旬、植栽予定の花壇、担当者、ボランティア等、植栽予定の苗又は種子をみんなで植える。 3 プランターの種類、土や堆肥を含めた必要な経費
1 時間	当日の作業内容	屋外 花壇	<ol style="list-style-type: none"> 1 植栽に必要な資材と安全手順の確認 2 サンプル苗又は花の種蒔きをデモンストレーションにより指導する。 3 散水用水栓の確認や水の確保について説明、要すれば調整 4 機会をとらえ、自治体等の広報誌に成果を発表し仲間を募る 5 サンプル用種子を配布して、次回に持ち寄り成果を検討して以降の参考の資とする。
SDGs との関連性	県や市の計画する環境プロジェクトや、他の団体（例えば Bay FM）が行う駅を綺麗にする花プロジェクトなどに参加し、植栽による環境整備が新たなライフスタイルや健康維持に寄与する事ができる。		
学校・地域等との連携上の考慮	地域内の自治会やサークル活動との連携や自治体等が行う環境整備推進活動として実施する事もできる。		
対象を発展させる可能性	地域住民と共に、季節ごとの花のある街造りを継続する事より、行楽客の増加とプロジェクトへの参加者が増えるなど、観光や地域活性化の事業として発展する可能性がある。		
その他 補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 自治体等に経費の助成を依頼又はクラウドファンディングも考慮する。 2 近隣の環境整備状況を研修する。 		

※ ペチュニア「さくらさくら」の品種

さくらさくら(ピンク色)、桃色吐息(濃いピンク色)、おゆきちゃん(ホワイト)

うすずみTokyo、小輪桃色吐息(濃いピンク色)(令和3年発売予定)

特徴：一般販売されているペチュニアは縦に伸びるものですが、さくらさくらシリーズは横に広がるもので、潮(塩)に強く、マリーゴールドやサルビアのように潮風で黒くなり溶けたりしません。

プログラム作成者名(団体名)：稲葉幸壽(さくらさくらを育てる会)